

別表

【岐阜県明智光秀ゆかりの地・人物】

自治体名	ゆかりの地・人物	ゆかりの概要
岐阜市	岐阜城	光秀の主君、斎藤道三・織田信長が居城した城
	常在寺	若き日の光秀が仕えた斎藤道三ゆかりの寺
	崇福寺	光秀の主君、織田信長は斎藤龍興を滅ぼして美濃に移ると、この寺を菩提所として保護した。
大垣市	多羅城	「明智氏一族宮城家相伝系図書」によると、光秀は、1528年大垣市上石津町多良の「多羅（たら）城」に生まれたとされている。
瑞浪市	一日市場八幡神社	智光秀を輩出した美濃源氏・土岐一族が、土岐郡に土着した際に最初に居館を構えた場所と伝わる。
	鶴ヶ城跡	明智光秀を輩出した美濃源氏・土岐一族が築き、以後土岐一族が城主であったと伝えられる山城
可児市	明智城	光秀が生まれ、落城するまでの約30年間を過ごしたとされる。
	天龍寺	明智氏歴代の墓所があり、本堂には日本一大きい光秀公の位牌（184cm）が収められており、毎年6月に「光秀供養祭」が行われる。
恵那市	明知城跡	明智遠山氏の始祖 遠山景重によって築城された。
	龍護寺	「光秀公供養塔」が残る。
	於牧の方の墓所	明智光秀公のご母堂、於牧の方の墓所
土岐市	妻木城	光秀の正室が「妻木城」の城主 妻木広忠の娘 熙子であったとされる。
	土岐高山城跡	光秀の源流、土岐源氏の館を防衛するために築かれた砦
山県市	桔梗塚	光秀公ゆかりの「うぶ湯の井戸跡」のほか、「光秀の墓」、「石塔」、「五輪塔」があり、年2回の「供養祭」も行われる。
	大桑城跡	光秀は土岐頼遠の子孫で、中洞（山県市）で生まれて十六歳の時に、東濃明智家に養子に行ったという伝承があります。
御嵩町	願興寺	明智光秀にも仕えた可児吉長（通称：可児才蔵）は、美濃国可児郡で生まれ、幼少期をこの願興寺で過ごしたとされる。
	可児吉長（通称：可児才蔵）	笹の才蔵と異称された才蔵は、20～30歳頃、明智光秀に仕官。光秀の家臣として頭角を現し、明智方として本能寺の変や山崎合戦に参加したと言われている。